

シン
辰

はまぐりの象形字であるが、今はその意味には全く用いられない。十二支の“たつ”に用いられるため、方角・時・年月日を表わすのに使われる。

方角(東から少し南にかたよった方角)

時 例 辰刻(時刻の意)

日 例 良辰(良い日の意)

天体 例 星辰

シン
神の仮借

シン
× 晨

日が辰の方角にあるころ

あさ(あした) 例 早晨・晨夜

シン
震

雨を降らす神

かみなり(雷)

雷鳴のとどろき(ふるえ) 例 震動(雷鳴に伴う空気のふるえが本義。地震の多いわが国では地震のふるえに使う。中国の地震は、雷の地をふるわせることをいう)

注 神は雷が本義。雷はで、雷のごろごろ鳴る様と雷光を

表わしたもの。神の申はで雷光を表わしており、電のと同じ意。かみなりは神鳴りで、鳴る神とも言われる。

シン
振

手をふるぶるとふるわせる

ふるわせる 例 振動

ふるう 例 振興・振武・不振

ふる 例 振鈴・三振

シン
× 脣

ふるぶるふるわせることのできる肉体の部分

くちびる 例 紅脣

シン
唇

口をふるぶるふるわせる

驚いて声を出す(本義)

くちびる(脣の代用)

娠

女のからだがふるぶるとふるえる

胎児が動く(本義)

はらむ 例 妊娠

シン
× 賑 お金が盛んに動く

景気がよい(本義)

にぎわう 例 殷賑

にぎわす 例 賑恤・賑救

注 貧困な人々に金品を与えることを“にぎわす(賑)”と言う。

問 次のシンを漢字で書け。

妊 殷 紅 動 興 夜

答 娠 賑 屑 振 振 晨